

小学校では、アルコールランプを使用する場面が少なくありません。大きな事故はないものの、ひやっとすることはあります。その使用にあたって、注意すべき点を確認しておきましょう。また、何となく自己流で使っているマッチ。そのすり方にも正しいやり方があります。あわせて再確認しておきましょう。

1 アルコールランプの使い方

(1) 事前の注意

燃料のアルコールが少なくなると器内の気体が爆発する危険がある。また、アルコールを入れすぎないように、器に上限の赤線と下限の青線を油性インクでつけておきたい。教師が気が付かなくても、子どもから指摘がある。

燃料を入れるときは、窓を開けて換気を心掛ける。気体を吸い込んで気分が悪くなる場合がある。

注入はロートを用い、こぼれたら、ふきとり、乾いてから点火する。



(2) 使用時の注意

点火はマッチの炎を横から近づける。やけどをしたり、ランプを倒したりする危険を小さくできる。

ふたをして消すときも横からかぶせるようにする。

火がついたアルコールランプで、他のアルコールランプに着火しない。

(3) 事故防止の留意点

燃えやすいものは机の上に置かないようにする。ぬれぞうきんは必ず用意しておく。また、火がついたアルコールランプで他のランプに着火しない。

万一倒して机の上で燃えだしてもあわてず、落ち着いて対処したい。

衣服に火がついてもあわてて振ったり、走ったりしないで、ぬれぞうきんをかぶせるなどして消火する。

アルコールが少ないと、容器内のアルコール蒸気に引火して爆発する危険がある。特に夏休み明けに事故が多いので注意したい。

2 マッチの使い方

軸木の頭を手前側にし、中箱が抜けないように左手の親指と中指で押さえて外箱を持つ。

- ・外箱を持つときに軸木の頭を先にして持つと、すった火が中箱に燃え移ることがある。

右手の4本の指でマッチの軸木を持ち、外箱の発火面に斜めにあて、強くこすりつつスッと押し出す。

- ・手前にすると火の粉が自分に飛び、危険である。

スッと押し出した瞬間に、軸木にそえていた薬指を離して広げる習慣をつけたい。

- ・そえる役目が終わった後は、すぐ離さないとやけどをする危険がある。

軸木の燃えさしは燃えさし入れに入れ、マッチは定位置に戻す。

